

2011年1月5日

東京急行電鉄 代表取締役社長 越村敏昭 社員への年頭メッセージ【要旨】

東京急行電鉄株式会社

1. 日 時 2011年1月4日(火) 10時10分

2. 要 旨

「安全」は当社のすべての事業の根幹であり、お客さまが東急ブランドに寄せる「信頼」の源泉です。「信頼」を揺るがすことのないよう、安全管理の徹底を図っていかねばいけません。お客さまの安全は、当社に求められる社会的責任の最重要事項です。第一線の皆さんと管理職、そして私を始めとする経営者が一体となって、安全管理に取り組んでいきたいと思いをします。

わが国では、先月政府が発表した景気の基調判断において、景気回復が停滞する「足踏み状態」という判断で据え置かれました。内需中心の当社諸事業は、引き続き売上が伸びにくい事業環境におかれることを覚悟して今年を乗り切っていくこととなります。このような状況の中、現在当社は中期2か年経営計画を推進中です。今年度と来年度は次なる成長ステージに向かうための基盤整備の時期であり、「コア事業の成長力強化」「事業の構造改革」「事業の効率性追求」に目途をつけていかなければいけません。

社会環境では、少子高齢化は、当社線沿線でも確実に進行しています。沿線の人口動態の量的変化に加えて、単身世帯の増加などの質的变化や、消費者のライフスタイルや環境問題なども、事業に組み込んでいく必要があります。

鉄道事業においては、2012年度の副都心線との相互直通運転に向けて、現在、渋谷、代官山間の東横線地下化工事が順調に進んでいます。不動産事業では、昨年から今年にかけて大規模開発プロジェクトの竣工・開業が相次いでいます。今年はリテール事業を含めた運営により、当初計画の収益を達成し、持続的成長のための戦略的投資であることを示す年となりました。個別プロジェクトの状況を述べると、「たまプラーザ テラス」は、昨年秋にゲートプラザ3期が開業し、グランドオープンしました。二子玉川ライズでは、今年3月に予定しているショッピングセンター部分の開業に向けた最終準備に入ります。「渋谷ヒカリエ」では、入居予定のオフィスや商業テナントが内定しつつある状況です。昨年開業した永田町における東急キャピトルタワーは、昨今の厳しいオフィス市況の中で、リーシング営業が健闘し堅調にスタートしています。大規模開発以外では、昨年秋にサービス付きシニア住宅の「東急ウエルナ大岡山」が開業しました。シニア住宅以外にも、人口の質的・量的変化を先取りした事業として、スタイリオブランドでの賃貸住宅や、住まいと暮らしのコンシェルジュの店舗を新規開業させる予定です。

厳しい事業環境の中ですが、東急が持つ強みを活かし、昨年より続く大規模新規施設の開業を契機として、経営計画で掲げた「成長戦略への質的転換」を目指して、共に頑張っていきましょう。

以上